

平成29年度自己評価シート(中間評価)

校番	17	学校名	佐伯高等学校	校長氏名	高橋光子	金・定・通	分
----	----	-----	--------	------	------	-------	---

学校経営目標							
達成目標		本年度行動計画		評価	理由	担当部等	
1 主体的な深い学びを通して、夢や目標の実現に向けて真摯に取り組む生徒を育てる学校。							
①深い学び、聴き合う関係づくり、ジャンプ課題を設定した授業が推進され、生徒の意識・行動が変容している。		○オーセンティックな学び、聴き合う関係づくり、ジャンプ課題の設定を取り入れた授業づくりを推進する。 ○生徒による授業評価アンケートを実施する。		A	・生徒授業評価アンケートの肯定的回答：84% ・自分から進んで学んでいると回答した生徒：81%	教務教科	
②常に学び合う協働的な教職員チームとして、自らの資質・能力の向上を図っている。		○教員一人2回以上(年間)の授業公開・協議会を実施する。 ○深い学びの推進に係る校内研修会を実施する。		A	・1学期授業公開回数：8回 ・校内協議会1回当たりの参加人数の平均：5.8人	教務教科	
③生徒一人一人の進路希望の実現に向けて、組織的に取り組む。		○計画的、組織的に個人面談を行う。 ○各学年の進路検討会議を行う。		B	・進路指導部による個人面談の実施：2学年生徒：1回 3学年生徒：2回 ・3学年の進路検討会議：1回	進路指導学年	

A：計画はとても順調に進んでいる。 B：計画は概ね順調に進んでいる。  
C：計画はあまり順調に進んでいない。 D：計画はまったく順調に進んでいない。

【評価結果の分析】

- 1学期末に実施した生徒授業評価アンケート結果の肯定的回答率をみると、質問項目：「授業中、自分から進んで勉強する」1学年：74% 2学年：80% 3学年88%、「自分たちで課題を解決する学習がよい」1学年：74% 2学年：77% 3学年85%、「授業中4人グループやペアは理解が深まる」1学年：85% 2学年：89% 3学年92%という結果であった。アンケート結果から、本校が取り組んでいる深い学び、聴き合う関係づくり、ジャンプ課題を設定した授業を通して、学びへの意欲が向上し、生徒の意識や行動が変容している。
- 校内授業研究は、教員一人年間2回以上の授業公開を計画どおりに実施した。
- 進路指導部による全生徒面談の実施については、3学年生徒：2回以上、2学年生徒：1回以上の面談を行った。1学年生徒については、半数の生徒への進路希望の聞き取りが終了しているが、すべての生徒の進路面談は今後行う予定である。

【今後の改善方策】

- 1学期末に実施した生徒授業評価アンケート質問項目：「答えが違ったら理由を確かめようとする」の肯定的回答率は、1学年：81% 2学年：69% 3学年77%という結果であった。1学年の肯定的回答率が2学年で減少している結果を踏まえ、教員が日常的に生徒に係る連携を密に図り、あきらめない粘り強い指導を行っていく。

- 校内協議会への参加人数をさらに増やすとともに、内容の充実を図るため、深い学びの推進に係る校内研修会を実施する。
- 生徒一人一人の進路希望の実現に向けて、1 学年生徒には、中学校からの「私のキャリアノート」の情報をもとに全生徒に面談を行い、担任、保護者と連携し、目標の実現に向けて真摯に取り組む生徒を育成していく
- 模擬試験や各種検定試験を計画的に実施するとともに、事前・事後の指導を充実させ、第一希望の進路実現に向けて、進路指導部、学年会の連携を密に図り、計画的・組織的に取り組む。

2 社会人としての基礎を培い、基礎的人間力を身に付けた生徒を育てる学校				
①自律心を育み、規範意識を考え実行できる能力・態度を育成する。	○挨拶、言葉遣い、服装、時間について日常的に全教職員が声かけを行う。 ○組織的な指導体制づくりを行う。	A	・遅刻 0 回の生徒の割合：88% ・特別な指導の対象者：1 名	生徒指導 ・保健
②生徒会活動、部活動、地域貢献活動等を活性化し、自己肯定感を高め、地域を愛する生徒を育てる。	○生徒会活動、部活動、地域貢献活動を積極的に行い、地域を知り、地域の課題を発見し、課題解決に向けて探究的に取り組む生徒を育成する。	B	・主体的に学校行事に参加した生徒の割合：74% ・学校でみんなと一緒に活動することが楽しいと回答した生徒の割合：91% ・自己に対する肯定的評価をしている生徒の割合：64%	生徒指導 ・保健  学年
③異文化交流等を通じてグローバルマインドを向上させる。	○姉妹校交流を充実する。 ○異文化交流イベント等を積極的に紹介する。	A	・台湾の姉妹校の訪問を受け入れ、交流を行った	進路指導
④特別支援教育の視点をもった教育活動を推進する。	○気になる生徒や欠席の続く生徒について教員間の連携を密にし、生徒の心身両面にわたる支援を充実させる。	B	・特別支援教育に係る研修会開催回数：1 回	生徒指導 ・保健

### 【評価結果の分析】

- 1 学期中の生徒指導上の遅刻者数は 1 年生 1 名、2 年生 9 名、3 年生 2 名、遅刻 0 回の生徒は 68 名であった。また、特別な指導については、1 名の生徒を指導した。
- 1 学期末に実施した生徒アンケート結果の肯定的回答率をみると、質問項目：「学校行事は、自分から進んで参加する」1 学年：67% 2 学年：77% 3 学年 81%、「学校でみんなと一緒に活動するのは楽しい」1 学年：100% 2 学年：81% 3 学年：92% という結果であった。2 学期を中心に、体育祭、文化祭、周年行事等が予定されているため、主体的に取り組む生徒の増加が期待できる。
- 生徒アンケート項目：「自分の良さは、周りの人から認められている」の肯定的回答率は、1 学年：59%、2 学年：66%、3 学年 66%であった。約 4 割の生徒の自己肯定感の醸成が課題である。
- 5 月に台湾の姉妹校の生徒 17 名の訪問を受け入れ、全校生徒と交流し、さらにボランティア生徒は宮島観光の案内を行い、貴重な異文化交流ができた。

**【今後の改善方策】**

- 学校行事等において、生徒が主体的に企画や運営ができるよう、教職員の連携を密に図り、指導の工夫・改善を行う。
- 生徒が自分の良さを発見し、協働して課題を発見し解決していく活動を充実させる。
- 姉妹校以外の異文化交流の機会も見逃さないよう、情報収集及び情報発信を行い、生徒の積極的な参加を促し、異文化交流等を通じて生徒のグローバルマインドを向上させる。
- 特別支援教育の視点をもった教育活動を推進するため、校内特別支援教育推進委員会を充実させるとともに、個別の指導計画を作成し、特別支援教育の組織体制を構築し、生徒の心身両面にわたる支援を充実させる。

3 地域から信頼される開かれた学校				
① 中学校との連携や魅力的な広報活動を通して、生徒の募集に努める。	○中学校で生徒・保護者の期待に応える学校説明を行う。 ○オープンスクールを充実させ、授業体験を組み込む。	A	・オープンスクール 参加者：93名 (生徒：56名 保護者：37名) ・オープンスクール参加者アンケートによる満足度の割合 学校説明：98% 模擬授業：95%	総務
② 学校教育活動について、タイムリーな情報発信を行い、計画的かつ丁寧な広報に努める。	○毎週更新を行い、タイムリーな情報発信を行う。 ○本校の魅力PRの工夫を行う。	A	・学校ウェブサイトの月当たり平均更新回数：8回	総務

**【評価結果の分析】**

- 今年度から6月にオープンスクールを実施し、本校生徒が主体的に運営していくよう指導し、中学生・保護者の期待に応える学校説明となるよう内容の工夫と充実に取り組んだ。また、県内外の中学校に対し、積極的な広報活動を行った。その結果、予想を大幅に上回る参加者数となった。また、オープンスクール参加者アンケートによる満足度も100%に近い結果となった。
- 4月から継続して、積極的に県内の中学校訪問及び県外の中学校との連携を図り、広報活動を行っている。
- ウェブサイトの内容を充実させるために、タイムリーに情報を掲載させるとともに、部活の内容を充実した。1学期間で41回の更新を行った。

**【今後の改善方策】**

- オープンスクールに参加した中学校と密に連携を図り、さらに積極的な生徒募集を行う。
- 学校ウェブサイト及び広報活動をさらに充実させる。また、創立70周年事業を通じて、広報活動をさらに広め、多くの方々から信頼される開かれた学校づくりを推進する。

様式 4

平成 29 年度自己評価シート(中間評価まとめ)

校番	17	学校名	佐伯高等学校	校長氏名	高橋光子	金・定・通	分
----	----	-----	--------	------	------	-------	---

1 評価結果の分析

(1) 「主体的な深い学びを通して、夢や目標の実現に向けて真摯に取り組む生徒を育てる学校」について

○1 学期末に実施した生徒授業評価アンケート結果の肯定的回答率をみると、質問項目：「授業中、自分から進んで勉強する」1 学年：74% 2 学年：80% 3 学年 88%、「自分たちで課題を解決する学習がよい」1 学年：74% 2 学年：77% 3 学年 85%、「授業中 4 人グループやペアは理解が深まる」1 学年：85% 2 学年：89% 3 学年 92% という結果であった。アンケート結果から、本校が取り組んでいる深い学び、聴き合う関係づくり、ジャンプ課題を設定した授業を通して、学びへの意欲が向上し、生徒の意識や行動が変容している。

○校内授業研究は、教員一人年間 2 回以上の授業公開を計画どおりに実施した。

○進路指導部による全生徒面談の実施については、3 学年生徒：2 回以上、2 学年生徒：1 回以上の面談を行った。1 学年生徒については、半数の生徒への進路希望の聞き取りが終了しているが、すべての生徒の進路面談は今後行う予定である。

(2) 「社会人としての基礎を培い、基礎的人間力を身に付けた生徒を育てる学校」について

○1 学期中の生徒指導上の遅刻者数は 1 年生 1 名、2 年生 9 名、3 年生 2 名、遅刻 0 回の生徒は 68 名であった。また、特別な指導については、1 名の生徒を指導した。

○1 学期末に実施した生徒アンケート結果の肯定的回答率をみると、質問項目：「学校行事は、自分から進んで参加する」1 学年：67% 2 学年：77% 3 学年 81%、「学校でみんなと一緒に活動するのは楽しい」1 学年：100% 2 学年：81% 3 学年：92% という結果であった。2 学期を中心に、体育祭、文化祭、周年行事等が予定されているため、主体的に取り組む生徒の増加が期待できる。

○生徒アンケート項目：「自分の良さは、周りの人から認められている」の肯定的回答率は、1 学年：59%、2 学年：66%、3 学年 66%であった。約 4 割の生徒の自己肯定感の醸成が課題である。

○5 月に台湾の姉妹校の生徒 17 名の訪問を受け入れ、全校生徒と交流し、さらにボランティア生徒は宮島観光の案内を行い、貴重な異文化交流ができた。

(3) 「地域から信頼される開かれた学校」について

○今年度から 6 月にオープンスクールを実施し、本校生徒が主体的に運営していくよう指導し、中学生・保護者の期待に応える学校説明となるよう内容の工夫と充実に取り組んだ。また、県内外の中学校に対し、積極的な広報活動を行った。その結果、予想を大幅に上回る参加者数となった。また、オープンスクール参加者アンケートによる満足度も 100%に近い結果となった。

○4 月から継続して、積極的に県内の中学校訪問及び県外の中学校との連携を図り、広報活動を行っている。

○ウェブサイトの内容を充実させるために、タイムリーに情報を掲載させるとともに、部活の内容を充実した。1 学期間で 41 回の更新を行った。

2 今後の改善方策

○1 学期末に実施した生徒授業評価アンケート質問項目：「答えが違ったら理由を確かめようとする」の肯定的回答率は、1 学年：81% 2 学年：69% 3 学年 77% という結果であった。1 学年の肯定的回答率が 2 学年で減少している結果を踏まえ、教員が

日常的に生徒に係る連携を密に図り、あきらめない粘り強い指導を行っていく。

- 校内協議会への参加人数をさらに増やすとともに、内容の充実を図るため、深い学びの推進に係る校内研修会を実施する。
- 生徒一人一人の進路希望の実現に向けて、1 学年生徒には、中学校からの「私のキャリアノート」の情報をもとに全生徒に面談を行い、担任、保護者と連携し、目標の実現に向けて真摯に取り組む生徒を育成していく
- 模擬試験や各種検定試験を計画的に実施するとともに、事前・事後の指導を充実させ、第一希望の進路実現に向けて、進路指導部、学年会の連携を密に図り、計画的・組織的に取り組む。
- 学校行事等において、生徒が主体的に企画や運営ができるよう、教職員の連携を密に図り、指導の工夫・改善を行う。
- 生徒が自分の良さを発見し、協働して課題を発見し解決していく活動を充実させる。
- 姉妹校以外の異文化交流の機会も見逃さないよう、情報収集及び情報発信を行い、生徒の積極的な参加を促し、異文化交流等を通じて生徒のグローバルマインドを向上させる。
- 特別支援教育の視点をもった教育活動を推進するため、校内特別支援教育推進委員会を充実させるとともに、個別の指導計画を作成し、特別支援教育の組織体制を構築し、生徒の心身両面にわたる支援を充実させる。
- オープンスクールに参加した中学校と密に連携を図り、さらに積極的な生徒募集を行う。
- 学校ウェブサイト及び広報活動をさらに充実させる。また、創立 70 周年事業を通じて、広報活動をさらに広め、多くの方々から信頼される開かれた学校づくりを推進する。

### 3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策（学校関係者評価実施後に記入）

- 保護者や地域社会に、学校のよさが十分に伝わるよう、学校ウェブサイト及び広報活動をさらに充実させる。特に行事や PR 活動において、生徒が前面に出て活動するよう留意する。
- 生徒の自己肯定感を高めるよう、指導において工夫・改善を行うとともに、教員が日常的に生徒に係る連携を密に図り、あきらめない粘り強い指導を行っていく。
- 今年度のオープンスクールは大好評であったため、次年度からも早期の実施に向けた計画を立案する。

様式 7

平成 29 年度学校関係者評価シート(中間評価まとめ) 平成 29 年 10 月 31 日

校番	17	学校名	佐伯高等学校	校長氏名	高橋 光子	金・定・通	分
----	----	-----	--------	------	-------	-------	---

評価項目	評価	理由・意見
目標, 指標, 計画等の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の達成目標が, よい方向で変更されている。目標達成のため, 頑張っしてほしい。</li> <li>・昨年度までの目標を見直して, 実態に合った目標設定を工夫している。</li> <li>・主体的な学びに取り組める生徒の育成の基本は, 生徒同士又は生徒と教師間で聴きあう関係ができることという目標設定は適切である。</li> <li>・地域に密着した目標設定がされている。生徒が地域の方とともに成長している。</li> <li>・どのような生徒を育てたいかという明瞭な目標を設定している。</li> <li>・地域とのつながりを大切に, 生徒自身も地域について理解を深める意思を持っている。</li> </ul>
計画の進捗状況の評価の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営計画の取組みが少し遅れている。進捗状況の管理が必要。</li> <li>・評価計画に沿って適切に評価されている。</li> <li>・生徒の授業評価アンケートの結果分析や生徒の意識や行動の変化を適切に分析している。今後も継続されたい。</li> <li>・地域に愛される高校であるためには, まず笑顔であいさつができることが大切である。</li> <li>・数値目標に対してありのままに現状を評価しようとしている。</li> <li>・アンケートなどで生徒の思いをきちんとくみ取ろうとしている。</li> </ul>
目標達成に向けた取組の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の指導について教員同士が意識的に学びあい, 生徒自身が成長を実感できるよう工夫された授業や行事が組まれている。</li> <li>・概ね, 適切である。</li> <li>・オープンスクールの時期を早めるなど, 戦略を持って取組を進めている。</li> <li>・3年間の目標値を明確にして取り組んでいる。</li> <li>・それぞれの学年に対して, 適切に対応している。</li> </ul>
評価結果の分析の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね, 適切である。</li> <li>・目標設定にかかるデータに基づくことを基本としながら, 期待する姿が見られたこと等も含めて, 判断してもよいのではないか。</li> <li>・「学校行事に進んで参加する生徒」や「学校のみなどと一緒に活動することが楽しい」という生徒が, 学年が進むにつれて増加しているのは非常に良いことである。</li> <li>・1年生の生徒全員が「学校が楽しい」と回答していることは素晴らしい。</li> <li>・生徒の自己肯定感をより高めていく取組みを期待する。</li> <li>・学校行事などの「仕掛け」が生徒に与える影響についてきちんと分析されており, 今後の改善の方向性を考える土台となっている。</li> </ul>

<p>今後の改善方策の適切さ</p>	<p><b>B</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の取組み次第で大きく変わる。今後を期待する。</li> <li>・負担過多にならない範囲で改善し、充分できている部分は現状維持でもよいと思う。</li> <li>・自分の良さを周りの人が認めてくれることが自信につながりやる気を生む。機会を見つけてみんなの前でほめることが大切である。</li> <li>・目標に対して不十分と考えられる点について、最初の計画に立ち返ると同時に、必要と思われる新たな提案も行われ現状を変革する意欲がうかがわれる。</li> </ul>
<p>総合評価</p>	<p><b>A</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンスクールの時期を早めて6月に実施したことを高く評価する。このことが今後の本校の発展につながる。</li> <li>・改善に向けた意欲が伝わってくる。</li> <li>・生徒をよく見つめ、その変化、成長をとらえて、計画や評価がなされている。</li> <li>・佐伯高校の存続に危機感を持って取り組んでいる。これまで以上に地域と連携し、魅力ある学校づくりに取り組んでいただきたい。</li> <li>・取組と評価を基盤に次の方向性を検討するPDCAサイクルに則った検討が行われ、確実に良い方向に変わっているという実感が持てる。</li> </ul>